

平成 28 年度事業報告

1 財団の概況

(1) 設立趣意書

熊本県が建設する熊本県立劇場は、高まり行く県民の文化的欲求に対応するとともに、地域文化開発の拠点となって、活力ある郷土の実現をめざすこととなるのであるが、その管理運営が極めて重要な課題となる。

現下の厳しい社会情勢にかんがみ、県立劇場の管理運営にあたっては、行政負担を抑制すると同時に行政サービスを低下させることなく、効率的かつ適正な執行体制を確保する必要がある。

このことから、県民の福祉及び文化の向上を図るための諸事業を実施し、県立劇場施設の管理委託を受けて、県民生活向上のためのサービスを提供する財団法人を設立のうえ、県立劇場建設の所期の目的を達成するため、民間のエネルギー及び感覚をもって、より効果的運営を図ろうとするものである。

(財団法人熊本県立劇場設立趣意書より)

(2) 法人の目的及び事業

① 目的（定款第 3 条）

この法人は、活力ある郷土の実現をめざし、音楽、演劇、舞踊等の舞台芸術活動を中心とした芸術文化及び地域文化の振興のための事業並びに優れた舞台芸術を広く提供する事業を行い、県民の福祉及び文化の向上に寄与することを目的とする。

② 事業（定款第 4 条）

- ・舞台芸術に関する公演を自主制作、又は、主催し、広く提供する事業
- ・個人及び団体への助言並びに人材の育成に関する事業
- ・団体への助成に関する事業
- ・調査、研究、情報収集に関する事業
- ・普及・啓発のための広報に関する事業
- ・公立文化施設の管理及び貸与に関する事業
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 沿革

昭和 57 年	6 月 11 日	財団法人熊本県立劇場の設立（民法第 34 条法人）
昭和 57 年	12 月 4 日	熊本県立劇場落成
昭和 59 年	3 月 5 日	財団法人熊本県立劇場文化事業委員会の発足
昭和 63 年	7 月 1 日	鈴木健二館長就任
昭和 63 年	8 月 20 日	文化振興基金の開設

平成 元年	3月 30日	施設整備基金の開設
平成 6年	3月 31日	自主文化事業調整基金の開設
平成 10年	7月 1日	施設使用料金の改定、施設使用許可取扱要領を整備
平成 11年	3月 1日	財団法人熊本県立劇場評議員会の発足（文化事業委員会の廃止）
平成 11年	4月 1日	川本雄三館長就任
平成 13年	3月 31日	旧文化振興基金の運用終了
平成 14年	4月 1日	自主文化事業調整基金を一新し文化振興基金に改め運用開始
平成 17年	7月 1日	熊本県立劇場条例及び条例施行規則改正の公布
平成 18年	4月 1日	第1期指定管理者運営開始（改正条例の施行） 文化振興基金及び施設整備基金を廃止
平成 18年	6月 1日	小堀富夫理事長就任
平成 18年	6月 23日	財団法人熊本県立劇場自主文化事業委員会の発足
平成 18年	7月 1日	葉山完治館長就任
平成 21年	3月 31日	第1期指定管理者業務終了
平成 21年	4月 1日	第2期指定管理者運営開始
平成 24年	3月 31日	第2期指定管理者業務終了
平成 24年	4月 1日	公益財団法人へ移行登記、第3期指定管理者運営開始
平成 26年	4月 1日	熊本県立劇場条例一部改正（改正条例の施行） 熊本県立劇場運営方針の施行
平成 27年	4月 1日	松本辰明理事長就任
平成 27年	6月 19日	世良喜久子理事長就任
平成 28年	1月 1日	姜尚中理事長兼館長就任
平成 28年	4月 14日	<u>熊本地震発生により8月24日まで休館</u>
平成 28年	12月 19日	<u>熊本地震を受けて第3期指定管理期間の2年延長</u>

(4) 施設の概要

施設	客席数	舞台	主な設備
コンサートホール	1,810席 (うち車椅子席8席)	間口 24.0 ^{メートル} 奥行 14.0 ^{メートル}	オーケストラ難壇迫り3段 ピアノ4台、チェンバロ1台
演劇ホール	1,172席 (うち車椅子席11席)	間口 18.0 ^{メートル} 奥行 20.5 ^{メートル}	大迫り、本迫り、オーケストラピット、 仮設本花道、ピアノ1台
大会議室	380人	間口 7.2 ^{メートル} 奥行 3.6 ^{メートル}	スクリーン、机54台、 椅子382脚、ピアノ1台
和室	—	—	畳18畳、板間18畳、 所作台12枚 他
音楽リハーサル室	—	—	308 [㎡] 、ピアノ2台 他
演劇リハーサル室	—	—	253 [㎡] 、ピアノ1台 所作台12枚 他
練習室（第1～第3）	—	—	215 [㎡] 、162 [㎡] 、156 [㎡] 各室にピアノ 他

2 事業の実施状況

当劇場は、熊本県の文化芸術の継承、創造、発信をとおり、県内文化ホールの中核的役割を果たすため、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律を受け、熊本県が平成 26 年 4 月に定めた「熊本県立劇場運営方針」に基づき、質の高い文化事業の実施や専門的人材の確保等に取り組んできました。

平成 28 年度は、4 月の熊本地震により、施設に大きな損傷を受けましたが、一日も早く県民の皆様に提供できるよう、ホール内の安全対策を中心とした応急復旧工事を行い、約 4 ヶ月後の 8 月 25 日に開館しました。

一方で、被災した方たちの「こころの復興」に資するため、これまで培ってきた人脈やネットワークを活かして、避難所や学校等に芸術家を派遣する「アートキャラバンくまもと」事業に取り組みました。

今回の熊本地震に対して、全国から劇場へ多くの寄附金（52 件／18,577,075 円／3 月末時点）が寄せられました。これを機会に、劇場の文化事業を支援する寄附金制度を設けました。「アートキャラバンくまもと」はこの寄附金を財源として活動していますが、今後とも劇場の文化事業に効果的に活用していくこととしています。

今年度は熊本県立劇場指定管理者として第 3 期の最終年度でしたが、熊本地震による災害復旧工事を実施するにあたり、安定的かつ継続的なサービス提供や適切な維持管理並びに「アートキャラバンくまもと」事業の継続実施の必要性から、昨年 12 月の県議会で 2 年間の委託期間延長が決定され、引き続き県と密接な連携をとりながら指定管理業務を行うこととなりました。

事務局体制については、4 月に退職者の欠員補充として新規正職員 3 名を採用し、11 月から業務量の増加に伴い電話・窓口対応業務をメインとした臨時職員 2 名を配置しました。

また、計画的な組織体制づくりを進め、業務の効率化・合理化を図るため、平成 29 年度採用の正職員採用選考を行いました。

そのほか日常の運営については、下記の事項に留意して管理運営業務を行いました。

- ① 公平な取り扱い
- ② 安全・清潔・快適な施設及び設備の提供
- ③ 利用者増加、利便性向上
- ④ 文化・教育・福祉の向上
- ⑤ 舞台芸術振興の中心的役割
- ⑥ 県民等とのパートナーシップとその意見の反映
- ⑦ 経費の節減
- ⑧ 公の施設としての機能・役割

(1) 管理運営事業 (公2・収1)

① 概況

管理運営にあたっては、業務の効率的な執行と、利用者が安全・清潔・快適で、親しまれ満足できる施設となれるよう留意しながら、管理運営業務を行いました。

・熊本地震への対応

一日も早い県民への利用提供をめざし、緊急点検調査の実施、外壁 PC 板の取り外し、高架水槽の更新、ホール内舞台設備の復旧等の安全対策を中心とした応急復旧工事を行い、約4ヶ月という比較的短い休館で開館しました。

また、委託業者も含めた地震訓練・消防訓練を実施するとともに、危機管理マニュアルの改訂や開演前アナウンスの実施など、新たな事態に対しても迅速かつ的確に対応ができるように、主催者との連携体制を整えました。

・施設設備の維持管理

平成27年度に、熊本県が新たに策定した保全計画に基づき、平成29年度に実施される予定の、演劇ホールの舞台機構改修工事設計委託に係る調査業務に取り組んだほか、コンサートホールのロアーホリゾントライトの更新、スタインウェイピアノ(2台)のオーバーホールが県予算で施工されました。

・満車時の混雑解消

熊本地震による被害箇所の本格復旧工事を行うにあたり、駐車場の入庫台数が490台から約350台に減少しています。

このため、催事利用車両による満車が想定される場合は、混雑回避のため、来館者への周知はもちろんのこと、主催関係車両の利用制限、近隣駐車場手配や誘導員の配置を行い混雑解消に努めました。

平成28年度は、有料駐車場満車時の職員による誘導整理は95日間のべ107回(平成27年度は、102日間のべ115回)となりました。

また、入出庫時の混雑解消のための正門付近の入出庫整理も同様に33回実施して混雑回避に努めました。(平成27年度実績41回)

なお、ゆめタウン大江とは満車に伴う周辺道路混雑について協議を進めており、混雑が予想される場合は、ホールの終演時間に合わせてゆめタウン大江の大江小学校側出口にて出庫整理を行うなど協力体制を構築しています。(平成27年度実績8回)

② 施設の利用状況

各施設の利用申請の受付及び施設使用料の収納事務に加えて、利用者が安全で快適に施設を利用できるよう施設の維持管理及び運営に努めました。

平成 28 年度の利用状況は、熊本地震により 4 月 15 日から 8 月 24 日までの約 4 ヶ月間の閉館（貸出停止）により、全ての催事が中止若しくは延期となりましたが、熊本市民会館をはじめ熊本都市圏の公共ホールの復旧に相当の期間を要することが見込まれたことから、1 年前からの予約受付においては定例的な催事に影響がないよう、段階的に予約停止を行うなど、速やかな情報の提供を行い、利用者への理解と協力を求めました。

《熊本地震の影響による中止及び延期日数》

- ・コンサートホール 73 日（39 催事）
- ・演劇ホール 81 日（51 催事）
- ・大会議室 81 日（59 催事）

（施設利用率・入場者数の目標と実績）

項目	目標	実績	差異
コンサートホール利用率	73.0%	75.5%	2.5ポイント
演劇ホール利用率	81.0%	86.7%	5.7ポイント
入場者数	520,000 人	301,553 人	▲218,447 人

《利用率》

コンサートホールの利用率は、目標の 73% に対して 75.5%、演劇ホールは目標の 81% に対して 86.7% といずれも目標を大きく上回りました。これは、熊本都市圏の多くのホールが使用できなくなったことによるものです。

《入場者数》

年間入場者数は、熊本地震による閉館の影響から、前年度比約 18 万 9 千人減の 30 万 1 千人と目標の 6 割程度に止まりました。

平成28年度施設の利用状況

1 施設別利用状況及び許可状況

(単位：日)

施設名		平成28年度	前年度同期	前年度同期比
コンサートホール	利用可能日数	184	296	▲ 112 (62.2%)
	利用日数	139	217	▲ 78 (64.1%)
	利用率 (%)	75.5	73.3	2.2 点↑ (103.0%)
	入場者数 (人)	134,817	218,389	▲ 83,572 (61.7%)
演劇ホール	利用可能日数	188	285	▲ 97 (66.0%)
	利用日数	163	225	▲ 62 (72.4%)
	利用率 (%)	86.7	78.9	7.8 点↑ (109.9%)
	入場者数 (人)	122,333	144,600	▲ 22,267 (84.6%)
大会議室	利用可能日数	184	312	▲ 128 (59.0%)
	利用日数	128	226	▲ 98 (56.6%)
	利用率 (%)	69.6	72.4	▲ 2.8 点↑ (96.1%)
	入場者数 (人)	23,506	50,191	▲ 26,685 (46.8%)
和室	利用可能日数	210	334	▲ 124 (62.9%)
	利用日数	88	125	▲ 37 (70.4%)
	利用率 (%)	41.9	37.4	4.5 点↑ (112.0%)
	入場者数 (人)	866	2,289	▲ 1,423 (37.8%)
音楽リハーサル室	利用可能日数	209	332	▲ 123 (63.0%)
	利用日数	147	242	▲ 95 (60.7%)
	利用率 (%)	70.3	72.9	▲ 2.6 点↑ (96.4%)
	入場者数 (人)	4,683	21,530	▲ 16,847 (21.8%)
演劇リハーサル室	利用可能日数	164	332	▲ 168 (49.4%)
	利用日数	98	184	▲ 86 (53.3%)
	利用率 (%)	59.8	55.4	4.4 点↑ (107.9%)
	入場者数 (人)	3,686	11,776	▲ 8,090 (31.3%)
第1練習室	利用可能日数	212	336	▲ 124 (63.1%)
	利用日数	115	179	▲ 64 (64.2%)
	利用率 (%)	54.2	53.3	0.9 点↑ (101.7%)
	入場者数 (人)	3,588	13,373	▲ 9,785 (26.8%)
第2練習室	利用可能日数	211	334	▲ 123 (63.2%)
	利用日数	128	245	▲ 117 (52.2%)
	利用率 (%)	60.7	73.4	▲ 12.7 点↑ (82.7%)
	入場者数 (人)	2,726	11,151	▲ 8,425 (24.4%)
第3練習室	利用可能日数	212	339	▲ 127 (62.5%)
	利用日数	163	283	▲ 115 (59.4%)
	利用率 (%)	79.2	83.5	▲ 4.3 点↑ (94.9%)
	入場者数 (人)	4,538	13,721	▲ 9,183 (33.1%)
他の入場者数	入場者数 (人)	810	3,605	▲ 2,795 (22.5%)
入場者数合計 (人)		301,553	490,625	▲ 189,072 (61.5%)
使用許可件数 (団体数)		811	1,074	▲ 263 (75.5%)

* 利用率は小数点以下2桁を四捨五入

平成 28 年度のホール・大会議室の施設利用状況は、次のとおりです。

【コンサートホール】

利用可能日数 184 日に対して、利用実績 139 日、入場者数 13 万 4 千人あまり、利用率 75.5%で、利用日数は 78 日減、利用率は 2.2 ポイントの増となっています。

利用形態別では、音楽会・歌謡ショー78 日（対前年度比 70 日減）、大会・集会・式典が 19 日（同 5 日増）、研修・講演・発表会が 25 日（同 14 日減）となっています。

大会・集会・式典の増の要因は、地震で被災した近隣高校の卒業式の代替施設となったことによるものです。

区分帯別利用では、午前 121 日（対前年度比 64 日減）、午後 129 日（同 62 日減）、夜間 78 日（同 40 日減）となっています。

【演劇ホール】

利用可能日数 188 日に対して利用実績 163 日、入場者数 12 万 2 千人あまり、利用率 86.7%で、前年度と比較して利用日数は 62 日減、利用率は 7.8 ポイント増となっています。

利用形態別では、演劇 33 日（対前年度比 6 日増）、邦楽・邦舞が 8 日（同 3 日増）、洋舞が 8 日（同 24 日減）、古典芸能が 11 日（同±0）、大会・集会・式典が 11 日（同 4 日減）、研修・講演・発表会が 54 日（同 10 日減）、歌謡・音楽会が 34 日（同 25 日減）、映写会その他が合せて 4 日（同 8 日減）となっています。

演劇の増の要因は、地震で被災した熊本市民会館で開催予定の催事の代替施設となったことによるものです。

区分帯別利用では、午前 148 日（対前年度比 53 日減）、午後 155 日（同 41 日減）、夜間 99 日（同 31 日減）となっています。

【大会議室】

利用可能日数 184 日に対して利用実績 128 日、入場者数は 2 万 3 千人あまり、利用率 69.6%で、前年度と比較して利用日数は 98 日減、利用率は 2.9 ポイント減となっています。

利用形態別では、大会・集会・式典が 13 日（対前年度比 5 日増）、研修・講演・発表会が 81 日（同 78 日減）、展示会が 2 日（同 2 日減）、歌謡・音楽会が 23 日（同 17 日減）、その他が 9 日（同 6 日減）となっています。

区分帯別では、午前 62 日（対前年度比 49 日減）、午後 113 日（同 87 日減）、夜間 45 日（同 32 日減）となっています。

2 ホール別・形態別利用状況

(単位：日)

施設名	形態別	平成28年度	前年度同期	前年度同期比
コンサートホール	利用可能日数	184	296	▲ 112 (62.2%)
	音楽会	78	148	▲ 70 (52.7%)
	歌謡ショー	0	0	0 (-)
	大会・集会・式典	19	14	5 (135.7%)
	研修・講演・発表会	25	39	▲ 14 (64.1%)
	その他	17	16	1 (106.3%)
	利用日数計	139	217	▲ 78 (64.1%)
	利用率 (%)	75.5	73.3	2.2ポイント (103.0%)
演劇ホール	利用可能日数	188	285	▲ 97 (66.0%)
	演劇	33	27	6 (122.2%)
	邦舞・邦楽	8	5	3 (-)
	洋舞	8	32	▲ 24 (25.0%)
	古典芸能等	11	11	0 (100.0%)
	大会・集会・式典	11	15	▲ 4 (73.3%)
	研修・講演・発表会	54	64	▲ 10 (84.4%)
	歌謡・音楽会	34	59	▲ 25 (57.6%)
	映写会	0	0	0 (-)
	その他	4	12	▲ 8 (33.3%)
	利用日数計	163	225	▲ 62 (72.4%)
	利用率 (%)	86.7	78.9	7.8ポイント (109.8%)
大会議室	利用可能日数	184	312	▲ 128 (59.0%)
	大会・集会・式典	13	8	5 (162.5%)
	研修・講演・発表会	81	159	▲ 78 (50.9%)
	映写会	0	0	0 (-)
	展示会	2	4	▲ 2 (-)
	歌謡・音楽会	23	40	▲ 17 (57.5%)
	その他	9	15	▲ 6 (60.0%)
	利用日数計	128	226	▲ 98 (56.6%)
利用率 (%)	69.6	72.4	▲ 2.9ポイント (96.0%)	

3 区分帯別利用状況

(単位：回)

施設名		平成28年度	前年度同期	前年度同期比
コンサートホール	午前	121	185	▲ 64 65.4%
	午後	129	191	▲ 62 67.5%
	夜間	78	118	▲ 40 66.1%
演劇ホール	午前	148	201	▲ 53 73.6%
	午後	155	196	▲ 41 79.1%
	夜間	99	130	▲ 31 76.2%
大会議室	午前	62	111	▲ 49 55.9%
	午後	113	200	▲ 87 56.5%
	夜間	45	77	▲ 32 58.4%
和室	午前	55	56	▲ 1 98.2%
	午後	54	78	▲ 24 69.2%
	夜間	40	71	▲ 31 56.3%
音楽リハーサル室	午前	74	140	▲ 66 52.9%
	午後	95	161	▲ 66 59.0%
	夜間	118	207	▲ 89 57.0%
演劇リハーサル室	午前	60	111	▲ 51 54.1%
	午後	72	157	▲ 85 45.9%
	夜間	68	131	▲ 63 51.9%
第1練習室	午前	67	89	▲ 22 75.3%
	午後	79	115	▲ 36 68.7%
	夜間	64	123	▲ 59 52.0%
第2練習室	午前	92	160	▲ 68 57.5%
	午後	68	114	▲ 46 59.6%
	夜間	73	150	▲ 77 48.7%
第3練習室	午前	133	192	▲ 59 69.3%
	午後	98	169	▲ 71 58.0%
	夜間	100	185	▲ 85 54.1%
計	午前	812	1,245	▲ 433 65.2%
	午後	863	1,381	▲ 518 62.5%
	夜間	685	1,192	▲ 507 57.5%
	合計	2,360	3,818	▲ 1,458 61.8%

③ 使用料収納の実績

平成28年度の施設使用料(設備使用料と駐車場使用料)収入は158,349,345円となり、県予算から67,282,655円下回る大幅な収入源となりました。

特に、駐車場使用料に関しては、震災による4ヶ月間の休館に伴う減収と、開館後の復旧工事による駐車台数減少により約45%の減少となりました。

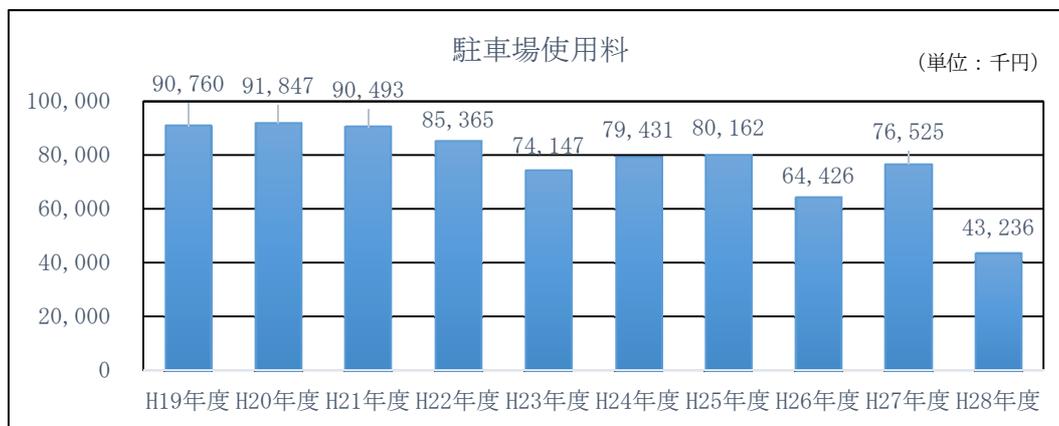
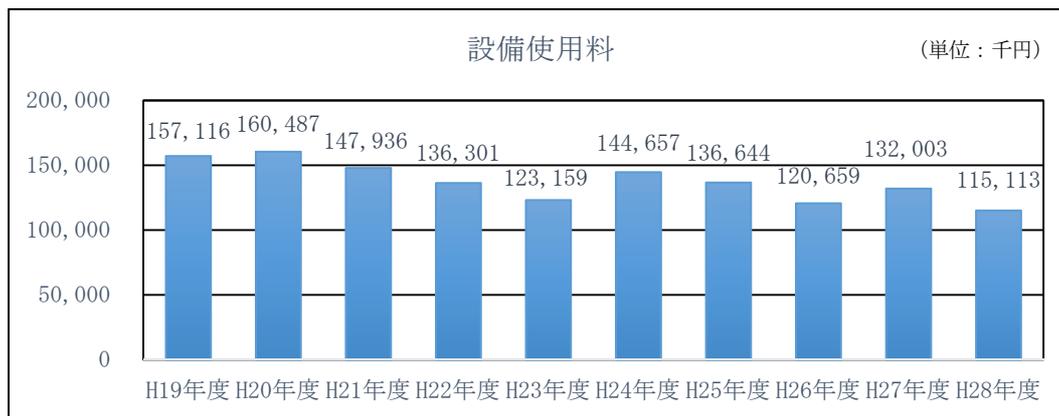
また、今年度収納額からの、催事取消等による設備使用料の返還については45件で、返還額は2,223,985円でした。

なお、熊本地震の影響による、使用料の払い戻し件数は153件で、県からの返還額は21,229,820円にのぼりました。

《使用料収納の状況》

項目		県予算	実績	差異
使用料 収納額	設備使用料	146,133,000円	115,112,945円	▲31,020,055円
	駐車場使用料	79,499,000円	43,236,400円	▲36,262,600円

(参考) 施設使用料収納額の年度別比較



(2) 文化事業 (公1)

文化事業の入場者・参加者は、目標数値の34,000人に対し42,415人と目標を大きく上回りました。これは、熊本地震の影響により中止・延期となった公演が思ったほど多くなかったことに加え、当初予定していなかった震災後の復興支援事業「アートキャラバンくまもと」を数多く実施したことによるものです。入場者アンケートの公演内容については、概ね97%超の割合で大変満足または満足と回答、高い満足度を示しています。

アートキャラバンくまもと (普及拠点事業)

熊本地震を受けスタートした新事業。「徳永二男 ヴァイオリンミニコンサート」を皮切りに、国内外の第一線で活躍するアーティストによるおでかけ公演や、演劇的手法を用いた子ども向けワークショップなど、益城町、御船町、南阿蘇村ほか県内各地で計146回実施しました。

助成：日本財団

(内訳)

《ジャンル別》		《形式別》	
・音楽	85回	・鑑賞型公演	85回
・演劇	42回	・参加型	49回
・舞踊	6回	・鑑賞・参加両方	12回
・伝統芸能	4回	計	146回
・伝承芸能	6回		
・その他	3回		
計	146回		

平成28年度は「第58回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」、「わかったさんのクッキー(4回公演)」、「ホワイエ薪能」、「辻井伸行 加古隆 レ・フレール THE PIANIST!」、「佐渡裕指揮 シエナ・ウインドオーケストラ」の5事業でチケットが完売。熊本で初の公演だった「アリス＝紗良・オット ピアノリサイタル」や「ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団」は満席に近い来客数となり観客からも高い評価を得た公演でした。

①芸術文化の創造拠点として取り組む事業 (公1)

1) 創り育む (詳細は24ページの資料を参照)

熊本県立劇場が自ら質の高い舞台を制作するとともに、本県文化創造の活動拠点として県民や文化団体の活動を育成・支援するための事業を実施しました。

第58回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る 新・合唱

メインプログラムの「土の歌」では、芸文祭合唱団・オーケストラに東京混声合唱団が共演。総勢280人の演奏に満席となった客席から称賛の声と大きな拍手がおくられました。

また関連企画として、芸術監督の山田和樹が山鹿市内の合唱団や合唱部に所属する子どもたちを対象としたワークショップや、熊本県立玉名高等学校・附属中学校音楽部の生徒をモデル合唱団として、合唱指導の公開講座を行いました。

助成：文化庁

地域をむすぶアートプロジェクト

平成 28 年熊本地震の被災者を支援するボランティア団体に対し、被災地におけるアート活動についての研修会を行ったほか、益城町での演劇ワークショップ、劇作家平田オリザ氏の講演会を開催しました。

児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験（芸術家派遣）

文部科学省の委託を受けて、児童生徒のコミュニケーション能力育成を図る事業を、県内の 4 小学校で実施しました。

委託：文部科学省

わかったさんのクッキー

熊本在住の劇作家岡田利規が作・演出を手掛けた親子向け演劇作品。熊本地震の影響で、会場を熊本白川教会に変更するとともに、公演回数を増やして実施しました。

助成：文化庁

三代目、りちゃあど

劇作家・野田秀樹が 1990 年代に初演し話題となった作品を、シンガポールの舞台芸術家オン・ケンセンの新演出で、東京・大阪・高知・福岡と連携して取り組みました。また、公演を楽しむための「開演直前！ミニ講座」により、作品解説を事前に行ったほか、関連企画として「夏目漱石が読んだシェイクスピア」、「ワヤン影絵芝居ワークショップ」を実施しました。

助成：文化庁、（一財）地域創造

ケンゲキ・アット・ライブ

県内在住の音楽家等に発表の場を提供し、アーティストの活動支援を行う事業。熊本地震の影響により 9 月からの実施となりました。

助成：文化庁

人材育成事業（舞台技術者養成）

将来の舞台技術者養成につなげようと昨年度から実施している継続事業。「舞台技術の基礎講座」（全 4 回）のほか、フロントスタッフ仕事について学ぶ研修会を併せて実施しました。

助成：文化庁

文化活動支援事業

県内で活動する文化団体等（詳細は 32 ページ参照）に対し、公演の広報や県立劇場の会場費助成により活動を支援しました。

民間共催事業

県内文化団体との共催事業として、「第 55 回熊本県新人演奏会」、「第 33 回ベートーヴェン『第九』」の 2 事業を実施しました。

2) 広げる（詳細は 27 ページの資料を参照）

本県における中核的な拠点ホールとして、県内各地域の公立ホールを支援するための事業等を実施しました。

ネットワーク事業

市町村ホールと連携して取り組むネットワーク事業は、熊本地震により 1 公演が中止となりましたが、一部日程や会場を変更しながら「林家たい平独演会（3 公演）」、「ハーバード大学クロコディロス（2 公演）」、「うないぐみ」、「熊本交響楽団」、「トリニティ」、「チアーズ・トリオ」を 8 市町で開催、どの会場も多くの地域住民で賑わいました。

助成：文化庁

被災地交流事業

平成 25 年度から実施している東松島市との交流事業。県出身の落語家・三遊亭好吉と、室内楽アンサンブルのチアーズ・トリオを派遣。2 つのホールでの公演のほか、ふれあいセンターや老健施設で地域住民との交流を図りました。

助成：文化庁

公立文化ホール支援事業

熊本地震を受けて、全国公立文化施設協会が全国の公共ホールに支援を呼びかけましたが、そこで集まった復興支援金（第 1 回振込 934, 121 円／3 月末時点）の活用について、県内公立ホールの職員でグループ討議を行ったほか、震災による各館の被害状況や復興に向けた取り組みについて情報交換しました。

3) 伝える（詳細は 28 ページの資料を参照）

日本の伝統文化や邦楽を継承し発展させる事業を実施しました。

邦楽ワークショップ

「日本の伝統を伝える」をコンセプトに、囃子（笛・太鼓）のワークショップとミニライブを実施しました。

助成：文化庁

漱石来熊 120 年記念能楽講座「漱石と能」

宝生流シテ方佐野登ほか能楽師 5 人を講師に迎え、漱石と能にまつわる話を切り口とした講座のほか、謡体験、演能「紅葉狩」などを実施しました。

助成：文化庁

ホワイエ薪能

熊本県出身・在住の能楽師らによる演能会をコンサートホールホワイエで実施。屋外に焚いたかがり火をバックに、金春流 仕舞「嵐山」や観世流 仕舞「松風」、喜多流 能「黒塚」などを上演しました。

助成：文化庁

②芸術文化の普及拠点として取り組む事業（公1）

1) 楽しむ（詳細は 29 ページの資料を参照）

専用ホールの特性を活かした質の高い舞台芸術公演に取り組みました。

アリス＝紗良・オット ピアノリサイタル

ドイツを拠点として活躍するアリス＝紗良・オットの熊本初ソロリサイタル。KAB 熊本朝日放送との共催で取り組みました。

辻井伸行 加古隆 レ・フレール THE PIANIST!

ジャンルもスタイルも異なる 3 組 4 人のピアニストが順番にオリジナル曲を演奏。三者三様の個性溢れる音楽スタイルで満席の観客を楽しませました。RKK 熊本放送との共催で取り組みました。

ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団

ドイツの実力派オーケストラによる公演。ヴァイオリン独奏に榎本大進を迎えてのベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲や、ブラームス作曲交響曲第 1 番など、クラシックファンに人気のプログラムを演奏しました。

助成：文化庁

佐々木典子&大澤一彰デュオリサイタル

熊本県出身のソリスト二人による公演。オペラのアリアや、歌曲を演奏しました。

助成：文化庁

花形狂言 2017

京都・大蔵流茂山千五郎家の若手狂言師による公演。古典を基礎にしながらも、現代的で独創的な表現に会場は終始大きな笑いに包まれました。

助成：文化庁

民間共催事業

県民の舞台芸術鑑賞機会を広げるため、民間事業者との共催事業により、「佐渡裕指揮 シェナ・ウインドオーケストラ」、「前進座子どもための創作歌舞伎『牛若丸』」の2公演を実施しました。

2) 出会う（詳細は30ページの資料を参照）

県立劇場以外のさまざまな場所で、多くの県民が文化芸術と出会うための事業を実施しました。

演奏家派遣アウトリーチ事業

県立劇場協力アーティスト（ヴァイオリン、コントラバス、サクソフォン、ピアノ）によるアウトリーチと演奏会を、あさぎり町、菊陽町、御船町、益城町の4町で実施しました。

助成：文化庁

登録アーティスト育成事業

平成29・30年度劇場登録アーティストの募集を行い、一次・二次審査を経て2名のアーティストを選出。アウトリーチ現場の見学や、3日間にわたる研修を行い45分間のプログラムを作成し、最終日には児童の前でアウトリーチを行いました。

助成：文化庁

芸術家派遣コーディネート事業

熊大附属中学校の「附中文化の日」の学校鑑賞会に野村万禄の会を派遣し狂言を上演しました。

ぴっころシート事業

企業の協賛を得て児童養護施設の子どもたち等を公演に招待する「ぴっころシート事業」は、ふだん舞台芸術にふれる機会の少ない子どもたちを対象に、3公演に7施設93名を招待。また、児童養護施設菊水学園では劇場協力アーティストによるアウトリーチを実施しました。

文化事業実績報告

①創造拠点事業

1)《創り育む》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
第58回熊本県芸術文化祭オープニングステージ ヤマカズが贈る 新・合唱					
8/30(日) コンサート ホール	ヤマカズが贈る 新・合唱	芸術監督・指揮、山田和樹。ゲストの東京混声合唱団がア・カペラ6曲を演奏した。続いて、本公演のための委嘱作品、児童合唱組曲「くまモン」を、芸文祭少年少女合唱団が披露。スペシャルゲストのくまモンも登場し、会場は大いに沸いた。メインプログラムの「土の歌」では、芸文祭合唱団・オーケストラに東京混声合唱団が共演。総勢280人の演奏に満席となった客席から称賛の声と大きな拍手がおくられた。	[指定] 2,000 [自由] 1,000	1,783	—
5/29(日) ～8/21(日) ルーテル学院 ほか	芸文祭合唱団練習 (全6回)	「土の歌」の合唱練習を県合唱連盟主体となって行った。	—	—	760
6/26(日) ～8/9(火) 山鹿市民交流 センターほか	芸文祭少年少女 合唱団練習 (全3回)	合唱組曲「くまモン」の練習を行った。	—	—	494
8/7(日) 8/14(日) 山鹿市民交流 センターほか	芸文祭オーケス トラ練習 (全2回)	副指揮者、石坂幸治氏の指導で「土の歌」を練習した。	—	—	120
7/27(水) 山鹿市民交流 センター	東京混声合唱団 in山鹿	講師は指揮者の山田和樹と東京混声合唱団セレクトメンバー4人。山鹿市内の合唱団や合唱部に所属する子どもたちを対象にワークショップを実施した。	無料	347	37
8/26(金) コンサート ホール	合唱公開レッス ン	熊本県立玉名高等学校・付属中学校音楽部の生徒をモデル合唱団として迎え、指揮者山田和樹による合唱指導の公開講座を行った。	無料	—	80
地域をむすぶアートプロジェクト					
5/24(火) 熊本保健科学 大学	アート×リハビ リテーション わくたまチャレ ンジ 研修会	大学において、医療・福祉関係者と介護現場で活用できるワークショッププログラムの研修を実施した。	—	—	18
6/9(木) 花習舎	被災地でのアート活動について レクチャー	熊本地震の被災者を支援するボランティア団体に対し、愛知大学准教授を講師に迎え、被災地でのアート活動についての研修を行った。	—	—	7
7/12(火) ケアサポート メロン	認知症対応型通 所介護施設ワー クショップ	熊本地震後の通所施設の様子を知るために、昨年から関わっている介護施設でワークショップを行った。	—	—	7
7/12(火) 熊本保健科学 大学	アート×リハビ リテーション 作業療法士との ワークショップ 研究	介護の現場を和ませるとともに、高齢者への対応のヒントを得るため、演劇ワークショップを実施した。	—	—	10

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
H29. 1/10 (火) ~ 3/15 (水) 益城町交流情 報センターほ か	未来トーク & 未来ハイスク ール 演劇ワー ク ショップ (全4回)	益城町が熊本大学ましきラボと進めている15歳~30歳 の若者が主体的に復興に取り組む「未来トーク & 未 来ハイスクール プロジェクト」に、県立劇場のノウ ハウを活かしプロジェクトの展開に協力。演劇家を講師 に派遣し、演劇ワークショップを行った。	—	—	44
3/18 (土) 益城町交流情 報センター	平田オリザさん と“かたる”！ ~小さなマチの 新しい未来~	益城町未来トークと熊本大学ましきラボ、県立劇場 アートキャラバンくまもとの3つの復興支援プロジェ クトが協働して開催。第1部は、平田オリザ氏の講演会、 第2部は、益城町で復興支援を行っている高校生や町役 場職員も交え、パネルディスカッションを行った。	—	—	70
H29. 1/22 (日) 3/12 (日) 音楽リハーサ ル室	オハイエくまも と協力	熊本地震の影響で練習場所を失ったオハイエの活動を 支援するため、劇場の練習室等を提供。また、3月19日 実施の「とっておきの音楽祭」に向け音楽家を招き、 演奏指導を行った。	—	—	146
H29. 3/19 (日) 熊本市現代美 術館	第8回オハイエく まもととってお きの音楽祭	熊本市中心部の8会場で実施された本事業に協力。熊本 市現代美術館ホームギャラリーでの14団体97人が参加 したコンサートの舞台進行全般に関わった。音響機材 や譜面台など、コンサートに必要な機材や備品の貸 与、進行表作成ならびに進行管理など、劇場が持つノ ウハウと技術を生かした協力を行った。	無料	850	—
文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験 (芸術家派遣) <コーディネーター実施方式>」受託事業					
11/15 (火) ~H29. 1/13 (金)	宇城市立海東小 学校ワー ク ショップ (全3回)	低学年、中学年、高学年の3つのグループに分かれ、 ワークショップを実施した。	—	—	239
11/24 (火) ~12/15 (木)	天草市立深海小 学校ワー ク ショップ (全3回)	平成29年3月閉校。本学校の児童は、人前で話すことを 極度に苦手としているため、教員の要望で新しい学校 での生活に困らないよう、「ソーシャルスキルトレ ーニング」を演劇的手法を使って行った。	—	—	117
11/25 (金) ~H29. 1/19 (木)	天草市立志柿小 学校ワー ク ショップ (全3回)	全校児童27人の小規模校において、低学年と高学年に 分かれてワークショップを実施した。	—	—	81
12/13 (火) ~H29. 2/5 (日)	松尾北小学校 ワークショップ (全8回)	145年の歴史を持つ同校が平成28年度に閉校。閉校に向 けての手助けとなる取組を実施。閉校式では地域の人 たちに向けて「ありがとう松尾北、そして、私たちの ふるさと松尾北」と全校児童による芸術表現活動で発 表した。	—	—	66

期 日 場 会	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
8/16(火) ～8/18(木) 熊本白川教会	わかったさんの クッキー (全4回)	国内外で活躍する演劇ユニット「チェルフィッチュ」の岡田利規が作・演出を手掛け、2015年に神奈川で初演し好評につき全国ツアーで再演された作品。舞台全面に広がった様々な形の舞台美術やカラフルな衣裳、俳優の動きや歌に、観客は楽しんでた。また、関連企画として美術家の金氏徹平氏による美術ワークショップを熊本市現代美術館で行った。	大人 2,000 子ども(4 ～高校生) 500	460	14
三代目、りちやあど					
9/17(土) 大会議室	〈関連企画〉 夏目漱石が読んだ シェイクスピア	シェイクスピア没後400年、漱石同100年にあたり、劇作家 平田オリザと姜尚中館長による対談を実施した。	無料	—	134
11/10(木) 演劇ホール	〈関連企画〉 ワヤン影絵芝居 ワークショップ	インドネシアの伝統的な影絵芝居「ワヤン・クリ」を体験するワークショップ。講師は舞台にも出演するスティアワン氏。人形芝居の上演後、参加者たちは人形を動かしたり、ガムランの演奏を習ったりと、インドネシアの文化に触れることができた。	無料	—	34
12/8(木) 演劇ホール	三代目、りちや あど	劇作家・野田秀樹が1990年代に初演し話題となった作品を、オン・ケンセンの新演出で、静岡を皮切りにシンガポール・東京・熊本・大阪・高知・福岡と取り組んだ。歌舞伎や狂言、インドネシアのワヤン・クリ人形影絵芝居の伝統芸能の役者や現代演劇の女優が出演。日、英、インドネシア語3ヶ国語の上演で日本語と英語の字幕で対応した。また、公演を楽しむための「開演直前！ミニ講座」を2回実施した。	[指定] S3,000 A2,000	323	150
毎月1回 光庭横休憩ス ペース	KENGEKI@Live	県内在住の音楽家等に発表の場を提供し、アーティストの活動支援を行う事業。熊本地震の影響により9月からの実施となった。ゴスペル、熊本大学体育会吹奏楽部、弦楽アンサンブル等が参加した。	無料	800	—
人材育成事業（舞台技術者養成）					
H29. 1/7(土)～ 2/12(日) 演劇ホールほ か	第2回舞台技術の 基礎講座 (全4回)	将来の舞台技術者養成につなげようと昨年度から実施している継続事業。受講生を照明・音響の各コースに分け、演劇作品を通して照明と音響の技術について学んだ。最終回はホールを使い、仕込みから本番、撤収までを体験した。	無料	—	74
H29. 1/12(木) 演劇ホールほ か	〈県劇ゼミ〉 フロントスタッ フのお仕事	講師にシアター・マネジメントプラン代表の星乃もと子を迎え実施。フロントスタッフの役割やスキルなど座学で学んだほか、ホールのフロントや客席を使ってチケットのもぎり方、スムーズな客席案内の仕方等基本的な実技を学んだ。	無料	—	19
通年	文化活動支援事 業	県内で活躍する文化団体等に、県立劇場での会場費を助成した。(3事業) 詳細は別表に記載。	主催者によ り異なる	2,632	—

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
民間共催事業					
11/5(土) コンサート ホール	第55回熊本県新 人演奏会 主催：熊本県文 化協会	オーディションで選ばれた熊本県出身または在住の演奏家（管弦打楽器4名、声楽2名、ピアノ4名）が出演。若さ溢れる演奏を披露した。	[自由] 一般 1,000	743	—
12/25(日) コンサート ホール	ベートーヴェン 「第九」 主催：熊本県民 第九の会、熊本 県文化協会	毎年恒例の県民参加の「第九」。昨今伸び悩んでいる集客を強化するため、夜公演から昼公演に切り替え、昨年比200人増を達成。演奏は16年ぶりに招聘した金洪才の指揮のもと、約340人のオーケストラ・合唱団が伸びやかな「歓喜の歌」を聴かせた。	[指定] 4,000 [自由] 3,000 学生 1,500	1,397	—
創造拠点事業《創り育む》 計				9,335	2,721

2) 《広げる》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
ネットワーク事業					
6/19(日) あさぎり町須 恵文化ホール	林家たい平独演 会	日本テレビ「笑点」でも人気の林家たい平による落語会。「初天神」や「禁酒番屋」を披露した。	2,000 (当日 500高)	280	—
6/25(土) ながす未来館	ハーバード大学 クロコディオス ア・カペラコン サート	ハーバード大学男声合唱団によるコンサート。ステイービー・ワンダーメドレーや、「上を向いて歩こう」などなじみの曲を演奏。両会場とも観客が手拍子が始まるなど、温かい雰囲気の中だった。菊陽町はホールが震災の影響で使えないため、小学校体育館での実施となった。	一般 1,000 高校生以下 500 (当日 500高)	520	—
6/26(日) 菊陽町立菊陽 中部小学校			無料	600	—
7/18(月・ 祝) 荒尾総合文化 センター	うないぐみ	坂本龍一（作編曲）と共作した新曲「弥勒世界報」ほか、「安里屋ユンタ」、「童神」など12曲を歌った。最後は、「花」を地元の女声合唱団「ハーモニーながす」と共演した。	一般 2,000 高校生以下 1,000	593	—
10/9(日) 菊池市泗水 ホール	熊本交響楽団	指揮、水戸博之。歌劇「カルメン」より『第一幕への前奏曲』、「マイスタージンガー」、「ハンガリー舞曲第5番」など有名なクラシック曲を中心に9曲演奏した。	一般 1,500 高校生以下 1,000 (当日 500高)	360	—
12/4(日) 八代市厚生会 館	箏・フラメン コ・ピアノ トリニティ	スペインからカンテ（歌）とギターをゲストを迎え、エネルギッシュなステージを展開。地元の八代少年少女合唱団との共演もあった。	[自由] 一般 1,500 高校生以下 1,000	512	—
12/18(日) 天草市民セン ター	チアーズ・トリ オコンサート	声楽・クラリネット・コントラバスで編成。各楽器の特徴を活かした曲目で、演奏を聴きながら楽器について学ぶことができた。また、クリスマスメドレーなど観客も楽しめるプログラムに、会場は盛り上がった。	[自由] 1,000 高校生以下 無料	180	—
H29. 2/28(火) ウィングまっ ぱせ	林家たい平独演 会	地震被害で日程・出演者ともに変更しての実施。平日昼間で集客が危ぶまれたが、TV番組などで人気の林家たい平の出演ということで500人以上が来場。たい平が得意とする声色や花火の芸を盛り込んだ古典落語「紙屑屋」などを楽しんだ。	[自由] 1,500	505	—

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
H29. 3/20(月・祝) 天草市牛深総 合センター	林家たい平落語 会	TV番組で人気の林家たい平の出演ということで、これ までの牛深町でのネットワーク事業で最多の観客が来 場。独演会では「初天神」や「不動坊」といった古典 落語のほか、ヘルマンハーブの演奏も披露した。	[指定] 一般 1,000 高校生以下 500	688	—
H29.3/4(土) ～3/5(日) 宮城県東松島 市	被災地交流事業	平成25年度から実施している東松島市との交流事業 は、4年目で5回実施。県出身の落語家、三遊亭好吉 と、室内楽アンサンブルのチアーズ・トリオを派遣。2 つのホールでの公演ほか、ふれあいセンターや老健施 設で地域住民との交流を図った。	—	550	—
9/1(木) 中会議室	公立文化ホール 支援事業	震災後の新たな事業についての事例発表では、アート キャラバンの情報をはじめ、他館の現状や地域の皆さ んへ向けての活動について話を聞いた。また、全国公 文協からの寄附金を元に、熊公文協としての活動がで きないかということについてグループワークを行い、 各班ごと発表した。	—	—	24
創造拠点事業《広げる》 計				4,788	24

3) 《伝える》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
8/12(金) 熊本市男女共 同参画セン ター はあもにい	邦楽ワーク ショップ —お囃子を体験 しよう!—	熊本地震の影響で会場を変更して開催。例年継続して 実施しているが、今回は体感を高めるために囃子 (笛・太鼓)に特化し、参加者がセッションの楽しさ を味わうプログラムとした。演奏家から楽器の扱いを 習い、実際に笛を吹いたり、太鼓をたたき体感のあと に、プロの演奏を味わった。	無料	—	188
12/24(土) 大会議室	漱石来熊120年記 念能楽講座 「漱石と能」	宝生流シテ方佐野登ほか能楽師5人を講師に迎え、お 話、謡体験、演能「紅葉狩」など実施。漱石と能にま つわる話を切り口に、多彩な内容を展開。普段観られ ない装束付けの実演もあった。講師のわかりやすい解 説で、受講者達の能楽への関心が高まった様子だっ た。	無料	—	136
H29.2/11 (土・祝) コンサート ホールホワイ エ	ホワイエ薪能	熊本出身・在住の能楽師らによる演能。屋外に焚いた かがり火をバックに、金春流 仕舞「嵐山」や観世流 仕舞「松風」、喜多流 能「黒塚」など上演した。ま た、大蔵流狂言「節分」では、鬼と女とのやり取りに 会場から笑いが起こった。	[自由] 3,000	206	—
通年	創造拠点新規企 画事業	年間パンフレットの作成及び印刷や平成29年度芸文祭 オープニングステージほか、次年度以降の創造拠点事 業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
創造拠点事業《伝える》 計				206	324

②普及拠点事業

1) 《楽しむ》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
9/27(火) コンサート ホール	アリス＝紗良・ オット ピアノリ サイタル	ドイツを拠点として活躍するアリス＝紗良・オットの熊本初ソロリサイタルを実施。KAB熊本朝日放送との共催事業。後半のリスト作曲「ピアノソナタ」では、真っ暗なステージで鍵盤のみに照明を当てて演奏。アリスの世界観を出した演出が大変好評だった。	[指定] S4,000 A3,500 B2,500	1,111	—
11/21(月) コンサート ホール	辻井伸行 加古隆 レ・フレール THE PIANIST!	7月14日に実施予定だったが、熊本地震による休館のため、開催日を延期して実施。ジャンルもスタイルも異なる3組4人のピアニストが順番にオリジナル曲を演奏。三者三様の個性溢れる音楽スタイルで満席の観客を楽しませた。	[指定] S9,000 A8,000 B6,000	1,740	—
12/1(木) コンサート ホール	ドイツ・カン マーフィルハー モニー管弦楽団	ドイツの実力派オーケストラによる公演。ヴァイオリンソロに榎本大進を迎えてのベートーヴェン作曲ヴァイオリン協奏曲や、ブラームス作曲交響曲第1番など、クラシックファンに人気のプログラムを演奏した。	[指定] S10,000 A8,000 B6,000	1,438	—
H29. 1/15(日) コンサート ホール	佐々木典子&大 澤一彰デュオリ サイタル	熊本県出身のソリスト二人による公演。オペラのアリアや、歌曲を演奏した。また、NHK熊本児童合唱団をゲストに迎え、團伊玖磨作曲の歌劇『夕鶴』のダイジェスト版を演奏した。	[自由] 2,000	630	—
H29. 2/19(日) 演劇ホール	花形狂言2017	京都・大蔵流茂山千五郎家の若手狂言師による公演。簡素なセット、遊び心の効いた演出、狂言師達の長年の技術に裏打ちされた発声や身のこなしの安定感。古典を基礎にしながらも、現代的で独創的な表現に会場は大きな笑いに包まれた。	[指定] S3,000 A2,000	568	—
民間共催事業					
12/21(水) コンサート ホール	佐渡裕指揮シエ ナ・ウインド オーケストラ (主催：熊本朝 日放送)	バリトン歌手のキュウ・ウォン・ハンをゲストに迎え、クリスマス曲を演奏。また、火の国熊本をイメージしたファリャ作曲「火祭りの踊り」やストラヴィンスキー作曲「火の鳥」では、力強さと繊細さが感じられる演奏で観客を魅了した。	[指定] S7,000 A6,000 B5,000	1,644	—
H. 29 2/17(金) 演劇ホール	前進座子ども のための創作歌 舞伎「牛若丸」 (主催：熊本県 子ども劇場連絡 会)	前進座による創作歌舞伎「牛若丸」を上演。演目に先立ち、「歌舞伎の楽しさ」として歌舞伎の立ち回りや見得などの意味や、太鼓の音の意味などを子どもたちにも分かるように説明する時間が設けられていた。	[自由] 4,000	820	—
普及拠点事業《楽しむ》 計				7,951	0

2) 《出会う》

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
演奏家派遣アウトリーチ事業					
10/13, 14, 20 あさぎり町内 小学校5校	あさぎり町ア ウトリーチ	協カアーティストによるアウトリーチを実施。ヴァイ オリンの緒方愛子、ピアノの山本亜矢子、サクソフォ ンの西口新一郎が、楽器の紹介や仕組みの説明、楽器 体験などを挟みながら演奏した。	—	—	193
10/11(火) ～11/16(水) 11/27(日) 菊陽町内小学 校5校 菊陽町図書館 ホール	菊陽町アウト リーチ &コンサート	協カアーティストによるアウトリーチを実施。ヴァイ オリンの緒方愛子、コントラバスの亀子政孝、ピアノ の山本亜矢子、サクソフォンの西口新一郎が、楽器の 紹介や仕組みの説明、楽器体験などを挟みながら演 奏。また、コンサートでは演奏家それぞれの持ち味を 生かした演奏と軽快なトークで観客を楽しませた。	[自由] おとな 800 高校生以下 400 (当日 200高)	228	483
12/5 (月) ～12/19(月) 御船町内小学 校6校	御船町アウト リーチ	劇場協カアーティスト(ヴァイオリン緒方愛子、サク ソフォン西口新一郎、ピアノ山本亜矢子)によるアウ トリーチを実施。各々の楽器の特徴・音の出る仕組 みの説明のほか、楽曲からどのようなイメージを思い浮 かべるか考えさせるアプローチを行って演奏するな ど、身近にある楽器をより深く理解できるアウトリ ーチを実施した。	—	—	218
H28. 2/14 (火)～ 3/12(日) 益城町内小学 校5校 益城町文化会 館	益城町アウト リーチ &コンサート	協カアーティスト(ヴァイオリン緒方愛子、コントラ バス亀子政孝、サクソフォン西口新一郎、ピアノ山本 亜矢子)によるアウトリーチ。各々の楽器の特徴や音 の出る仕組みの説明のほか、楽曲を聴いて情景などの イメージを膨らませ、そのイメージを自分の言葉で表 現することで、音楽をより深く理解し親しみを持てる 内容だった。また、文化会館では4人による演奏会を 行った。	無料	233	371
9/7 (水) ～H. 29 3/13 (月) 第1練習室ほ か	登録アーティ スト育成事業	平成29・30年度劇場登録アーティストの募集を行い、 一次・二次審査を経て2名のアーティストを選出。アウ トリーチ現場の見学や、3日間に渡る研修を行い45分間 のプログラムを作成、最終日には児童の前でアウト リーチを行った。	—	118	8
10/19 (水) コンサート ホール	《芸術家派遣 コーディネー ト事業》 附中文化の日 芸 術鑑賞会	野村万禄の会による狂言の上演。 「柿山伏」、「附子(ぶす)」と、それらの解説・体 験講座を交えた鑑賞会を行った。	—	505	—
H29. 1/7 (土) 菊水学園	《ぴっころシ ート事業》 おでかけぴこ ろシート in菊水学園	ぴっころシートの協賛金を活用し、協カアーティスト の亀子政孝(コントラバス)とピアニストの園田佳代 によるアウトリーチを実施。小学校低学年から高校生 までの幅広い年齢層だったが、楽器の特性を活かした プログラムと柔らかい語り口で、観覧者は飽きる様子 もなく集中して聴いていた。	—	60	—

期 日 会 場	事業名	概 要	入 場 料 (円)	入 場 者 (人)	参 加 者 (人)
アートキャラバンくまもと					
通年	アートキャラバンくまもと	熊本地震を受けスタートした新事業。5月9日の「徳永二男ヴァイオリンミニコンサート」を皮切りに、ダンスカンパニーのコンドルズ、指揮者の山田和樹、英国ロイヤルバレエ団、佐渡裕&スーパーキッズ・オーケストラほか国内外の第一線で活躍するアーティストによる公演や、演劇的手法を用いた子ども向けの寄り添い型ワークショップなど、益城町、御船町、南阿蘇村ほか県内各地で計146回実施した。	—	11,138	1,605
H29. 2/6(月) コンサート ホール	#100 N響からのおくり もの	「アートキャラバンくまもと」の100回目として、コンサートホールでの無料公演を実施した。客席はほぼ満席で、観客からは「地震でいろんなことが変わってしまった熊本で、またこんなにすてきな音楽が聴けたこと、本当にうれしかったです。」等の感想をいただいた。	無料	1,796	—
H29. 3/2(木) 大会議室	〈震災報告会〉 熊本地震を振り返る	第1部は、日本大学理工学部建築学科の本杉教授を迎えて「県内公共ホールの被害状況と今後の課題」について基調講演を行った。 第2部は、落語家の三遊亭好吉、熊本市男女共同参画センターはあもにいの藤井館長、益城町文化会館の山口館長、県立劇場姜館長がパネリストとして登壇。震災後の文化ホールの役割について意見交換を行った。	無料	—	110
通年	普及拠点新規企画事業	「くまモン音楽祭」や「フィルハーモニア管弦楽団」公演に係る印刷・広報のほか、次年度以降の普及拠点事業の調査および打ち合わせ等を行った。	—	—	—
普及拠点事業《出会う》 計				14,078	2,988

文化活動支援事業一覧

期日	会場	公演名	講演概要	入場者 (人)
9/11 (日)	演劇ホール	親と子のオペラ鑑賞会 「ヘンゼルとグレーテル」	オペラを、次世代を担う子どもたちに肌で感じてもらい、オペラをより身近に親しんでもらうことを最大の目的として開催。子どもたちにも分かりやすいように工夫された日本語の歌詞と、キャストが客席を歩くなどの演出等で、子どもだけでなく大人も楽しむことができる充実した内容となっていた。	711
10/16 (日)	コンサートホール	くまもと2016 第30回 箏曲の祭典	藤原道山(尺八)、深海さとみ(箏)をゲストに迎え、第30回の記念の公演を行った。熊本の自然をモチーフとして作られた30周年記念委嘱作品「水の風景」Water Scapeを82名で演奏した。	1,239
11/6 (日)	コンサートホール	一般吹奏楽団合同音楽会	「復興」をテーマに、県下9つの吹奏楽団体が、交響曲「日本の城」や熊本地震テーマソングなどを演奏。 吹奏楽の演奏のほかダンスなどを交え、元気の出る舞台となった。	682
計				2,632